



## MMWIN<sup>®</sup>みんなのみやぎネット<sup>®</sup>

より効率的で、質の高い医療・介護サービス提供のために  
Vol. 107

### MMWINを活用した薬薬連携についてWEB講座を開催しました

3回目の開催となります保険薬局様向けWEB講座を8月30日に実施いたしました。今回は、病院薬剤部の立場から日常業務の中でどのようにMMWINを活用し、保険薬局と連携されているかをテーマに、お二人の先生にご講演いただきました。

最初の講演は、東北労災病院薬剤部主任 熊谷史由先生よりお話しいただきました。先生は普段からMMWIN上で患者さんの診療情報、特に他院で実施した化学療法の前投薬や使用していた薬品などの履歴を参照し、ご自身の患者指導に活かされており、MMWINを保険薬局とのFAXや文書のやり取りに代用できないかとお考えになられたとのこと。そして今年5月には、トレーシングレポート(TR)の授受にMMWINのコミュニケーション機能(チャット機能)を利用する方法で一部の保険薬局と試験運用を開始されました。



左より 松浦正樹先生、熊谷史由先生



熊谷先生のデスク環境  
(講演資料より抜粋)

MMWINの利用により、病院薬剤部ではパソコン1台でTRの応需、返信、カルテへの取込みが完結でき、さらにチャット感覚で手軽に保険薬局と意思疎通ができるなど、業務の効率化が図れたとのこと。

また、保険薬局側からは、紙での出力が不要になり、FAX送信の手間が省けたといった反応があったそうです。対象はMMWIN導入施設に限られてしまいますが、試験運用を通し日常業務におけるMMWINの有用性を中心に参加者の皆さまにお話しされておりました。

2つ目の講演では、東北大学病院薬剤部副薬剤部長 松浦正樹先生よりMMWINを活用した入院時の連携や、今後の薬薬連携に期待することについてお話しいただきました。保険薬局からの入院時の服薬情報提供にあたり薬薬連携ツール利用(&MMWINメールの利用)を推奨されている東北大学病院では、2022年8月より本運用を開始され、今年8月時点でツール申請施設が161となり、順調に普及が進んでいるとのこと。その結果、現在入院時服薬情報提供においては、9割近くがMMWINメールで送られているそうです。

講演の後半には薬局薬剤師業務のDX化についても触れられ、今後薬剤師は、外部医療機関のデジタル情報(検査値、アレルギー、病理レポート等)を有効利用する能力を磨く必要があるとのことをお考えでした。

セミナー参加者のアンケートでは、「今まで、患者さんがMMWINに加入されているか分からなかったり、MMWIN端末が近くにないため活用できていなかった。薬薬連携ができれば、かなりスムーズに調剤も進むだろう。」「薬局の役割を拡大する必要性を実感した。」、また、他県からの参加者からは、「(同地域では)病院薬剤師がネットワークに触れる機会がほとんどないため、薬薬連携運用イメージができていなかったが、大変参考になった」、というお言葉もいただきました。

お問合せ先：

一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

Miyagi Medical and Welfare Information Network (MMWIN)

【住所】仙台市青葉区一番町1-15-19 【WEB】<http://www.mmwin.or.jp>

【TEL】022-395-6312 【FAX】022-395-6313 【E-mail】[office@mmwin.or.jp](mailto:office@mmwin.or.jp)



『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。